



国際交流「紅葉まつり」(夢のかけはし21実行委員会)
2001年11月18日：岩国市吉香公園でのモンキーブリッジ展示

百方一心

題字は、毛利三十二代毛利元道氏書

第 30 号

発行

平成14年 3月10日

山口市神田町 1-80

防長青年会館

ボーイスカウト山口県連盟

TEL 083-928-0079

FAX 083-923-8623



「基本を考える」

県連副コミッショナー 友田宏幸



今年第
20回世界ジ
ヤンボリー
(タイ)と第
13回日本ジ
ヤンボリー

(大阪)が開催されます。

参加されるスカウトは、普段の
隊活動の成果を十分発揮されジヤ
ンボリーを楽しんでください。

さて、ジャンボリーといえばキ
ヤンプ生活ですが、ちょっとここ
で自隊での隊キャンプを思い出し
てみてください。環境問題等の関
係もあり全ての隊がそうではない
かもしれませんが、水汲みといえ
ば近くに水道があり蛇口をひねれ
ば水が出る。まき割りとかまど火
おこしはガスコンロで、トイレは
完備されている。

何もかもそろったキャンプ場を
使用しているため野営工作の場が
ほとんどない状態にあるのではな
いでしょうか？

例えば、許されるならば山の中
に 1 m 50 cm の深さの穴を掘り周囲

を木の枝やシートで囲み、踏み板
を置き大地にどっしりと腰を据え
て鳥のさえずりを聴きながらセレ
モニーを行うのもいかがなもの
でしょう。

今このように野営工作(自分た
ちで作る、自分たちで使う)をす
ることがほとんどないのが現状で
与えられたものを使用するだけで
物の大切さが薄れてきているので
ないのでしょうか。

私もそうですが日常生活のなか
にもあると思われれます。自分たち
で作れば多少でも大切にしますが
与えてもらえば雑な扱をすると思
われれます。だから、今のキャンプ
がいけないという訳ではありませ
ん。社会環境に合わせていくのも
必要だと思えます。

キャンプのなかで1種でもいい
から取り入れスカウトの技能面の
向上と達成感をあげたいならいい
のではないのでしょうか。

「経験することで学ぶ」益々、ボ
ーイスカウト指導者の役割りが大
切になると思われれます。

歳末たすけあい共同募金

萩第5団

カウトたちは声をいっしょうけんめいに出していました。いろいろな方とふれあい、また優しい声をかけられながらの奉仕活動で大変、有意義でした。

12月23日(日)萩市内アトラス萩店前で、歳末たすけあい募金を行いました。大変寒中、ス



萩：アトラス萩店



田布施：駅前

岩国：イズミ南岩国店



もちつき大会 萩第5団

12月23日萩市堀内で、もちつき大会を実施しました。萩第5団スカウトを始め今年はガールスカウトも参加し大変にぎやかに行われました。スカウトが臼を目の前に、杵を手に持ち格闘する様子は見ているリーダーや保護者の笑顔を誘っていました。できあがった「もち」は、みんなでおいしくいただきました。老人ホーム「しづき苑」に寄贈しました。

12月23日萩市堀内で、もちつき大会を実施しました。萩第5団スカウトを始め今年

はガールスカウトも参加し大変にぎやかに行われました。スカウトが臼を目の前に、杵を手に持ち格闘する様子は見ているリーダーや保護者の笑顔を誘っていました。できあがった「もち」は、みんなでおいしくいただきました。老人ホーム「しづき苑」に寄贈しました。

2002・初日の出登山 防府第5団ボーイ隊

平成14年元日に、防府天満宮ゆかりの天神山に、新春恒例、初日の出登山をしました。あいにくの曇り空でしたが、運良く雲の間から御来光を拝む事ができました。これも、ひとえに神の御加護と思えます。単身赴任から帰省中の小川副長も、久々にスカウトの顔を見て、満足そうでした。



昼食は、リーダー特製のカレーライス。(なんと前日より仕込み開始!) 参加したみんなからも大好評でした。

正月庭燎奉仕

萩第5団

あと数時間で年が変わる12月31日(日)に萩市堀内春日神社境内で正月庭燎(ていりょう)奉仕を行いました。

(「正月庭燎奉仕」とは年が明けるときに神社に來られた方々にお神酒をふるまい、たいまつ(たいまつ)の火の番をすることです。)

今年はお参りに來られた方も多くスカウトたちも右に左にと大忙しでした。幸い天気が崩れることもなく、一年の最後と一年の最初の奉仕ができスカウトたちの顔も、晴れていました。

創立45周年記念式典

萩第5団

11月24日(土)萩市堀内春日神社境内において萩5団創立45周年記念式典が開催されました。

昭和31年に創設され、45年。今回の45周年記念式典には来賓の方も多数参加され、肌寒い中その歴史の重みが式典の中にも感じられました。

萩5団の隊舎内に掛けてある吉田松陰の詩「志」には「人は万物の恩恵を受けて生きている。これに感謝し、自然を大切にしたい」とあります。これからもスカウト、リーダーともにその精神を持ちスカウト活動にがんばっていきましょう。

富士章 おめでとう

岩国第1団VS隊竹重勇輝君

伝達式では、今をスタートとして精進することを誓い、後輩達のエールを受けました。



秋の交通安全キャンペーン 岩国地区スカウト

岩国西自

動車学校での交通安全キャンペーンのイベントに岩国地区のスカウトが参加した。9月23日秋晴れの暖かい日差しの中、いろいろな体験をしました。車を実際に走らせて1度目はうまく止まらなかった人形をはねてしまった時はビックリしました。



手には死角と目に見えない部分があることも教えてもらいました。横断歩道における車の前シヤーンが作る死角、止まった車の周辺などがそれにあたります。我々の方からは車が見えたり見えたり死角になって自分が見えていないなどと考えたことはありませんでした。ここで学んだ事を忘れずに、今日からは交通安全に気をつけたいと思います。

次に、自転車に乗っていてよくやる事で、歩道を走っていて人がいたり対向自転車きたりすると歩道から車道へ車線変更するけど、そばから見ているととつても危なっかしいことが分かりました。そして、車の運転

ベンチャー技能キャンプ 西部地区で開催

西部地区主催のベンチャースカウト技能キャンプが小松崎洋二西部地区進歩委員長を主任講師にスタッフ4名参加スカウト5名で小野田第1団スカウトハウスで平成13年10月27日、28日に行われた。ベンチャースカウト技能章課目のひとつで



鶏をつまみではみたが

ある炊事章習得にむけ、まずはけがをしないように調理器具の取扱注意や使用方法、食材・食品についての腐敗防止や、栄養素の講義を朝昼夕食の調理を兼ねた魚や鶏のさばき方の実践を間にはさみながらスカウト全員調査項目をクリアした。調理実習で楽しく興味もあるが、難しいのは鶏のさばき方でしょう。日ごろ目にするスーパーのショーウィンドウにある鶏肉と違い、鶏の頭と足がないだけですから...



まつり山陽 ミニスカウト展

山陽町厚狭駅前で、平成13年11月11日開催。展示品は結索法パネル、募集パネルなど。体験コーナーのロープ結び、どんぐりこま、たけとんぼや火起こしなどが好評だった。



第1地区ミニスカウト展

第1地区内の各地でミニスカウト展が開催されました。11月4日には、平生町文化会館でミニスカウト展を開催。岩国では11月17日の「国際親善紅葉祭り」にモンキーブリッジを展示して参加、11月24日の「青少年のための科学の祭典」にはパブロケットを創ってみようコーナーで参加といろいろな趣向を凝らした企画でスカウト募集を兼ねたPRを行いました。



平生町
岩国



雨の宇部まつりスカウト展

あいにくの雨つめたい雨の中のスカウト展は平成13年11月4日宇部まつり会場にて開催客足さっぱりの会場はスカウトの歓声だけがひびいていた。

第2地区ミニスカウト展

第2地区では、光、下松、徳山でミニスカウト展が開催されました。それぞれの団で趣向を凝らした展示物などで、スカウト活動のPRを行いました。

下松第5団 光第2団



徳山第4団

第2回定型外訓練

指導者養成委員会

平成13年度の第2回定型外訓練が、西部地区小野田第1団隊舎を会場として10月7日～8日の日程で開催された。

今回の講習会は、「指導者のためのソングセミナー」「パソコン・立木染め」をメインテーマとして開催され、参加者はそれぞれ技能の研鑽と修得に果敢に挑戦し、2日間の講習を終了した。なお、14年度の第1回定型外訓練は例年どおり5月の連休に開催を予定している。

自然が創る森の芸術「立木染め」

草木染め、ろうけつ染め、藍染めなど染色方法にも色々ありますが、立木染めという染色方法をご存じでしょうか。

山野にある樹木そのものを立木の状態で、樹木の内部に直接染料を注入し、木が持つ樹液流の働きを利用して木そのものを染色する方法です。山口県連盟のHPで染色の方法、染色木を利用したチーフリングの作成方法などを詳しく紹介しています。記念品などの素材としても活用できます。



毎年行っている岩国市老人福祉センターの門松作りを4団のカブ隊・ボーイ隊とが平成13年12月23日(日)に行いました。暖かい日差しの中で鋸や竹割りを使い門松を完成しました。出来具合はどうでしょうか。



第3期救急法講習会蘇生法課程

〔第1地区開催〕

平成13年9月30日(日)

岩国市中央公民館において開催された救急法講習会に参加した。指導者を含めた11名の受講生は真剣な空気の中で午前中は井上先生と春名先生の講義(いつもは眠たくなるのに不思議と目がさえてた)を受け、午後からは非常に厳しいと噂の村上リーダーのダミーを使った人工呼吸の実習を受講した。実習ではなかなか合格の声が掛からず唇が腫れ上がってしまった。私に代わって手本を見せてくれた村上リーダーはさすがに現役の救命士だけあって何気なくやってもすべて

グリーンランプ、日々の精進のためものだと感じました。人の命を救うことは大変だけどそんな場面に直面したら臆せずできるように今後の訓練でもたくさん練習しておこうと思

救急法講習会

光第2団 中尾聡志

救急法講習会では、まず最初に怪我人の搬送法を教わりました。怪我人を搬送するには、やはり急造担架を作って運ぶのが怪我人にとつても一番安心なので、とつても良いと感じました次に、消防署の人から心肺蘇生法を習いました。人工呼吸は气道を確保しないと意味がなかったり、心臓マッサージは15回もやると結構疲れてきたりと色々難しい事がありました。今回の講習会の中では一番重要で日常で使えるのでしっかりと頭に入れておこうと思いました。それから三角巾と包帯の使い方



方を教わりました。三角巾も止血等に非常に役立つところが解りました。講習会で習った事は生涯役立つので家で再度思い出して生かしたいと思

第2回ビーバー隊集会 「公開プログラム忍者ごっこ」

下松第5団ビーバー隊 隊長 竹中喜久美

冬の木枯らしが素肌に染みる
12月8日、光市野外活動センター
はちびっこ達の元気な声とパ
ワーに満ち溢れていた。

公開プログラム第2回忍者ご
っこ始まりである。

スカウト40名、一般参加のち
びっこ50名、保護者42名、指導
者15名、地区委員3名、総数150
名の大忍者軍団が忍者の修行に
出発だ。まずは忍者の衣装作り
に挑戦！カラフルなビニール袋
を使ってそれなりの？孫にも衣
装的な出で立ちで今度は刀作り
だ。親子で協力しながら新聞を
巻いている皆に「余り固く巻か
ないで」と一応忠告した。後で
痛い思いをするとも知らずにお
父さんお母さん達はせつせと刀
を作り、2グループに別れそれ
ぞれの修行コースに挑戦して行
った。

まずは竹ポックリを使つての
水上渡り、初めての体験で一步
がなかなか出ないちびっこも一
生懸命挑戦した。次は手裏剣投
げだ。この日の為に作つておい

た手裏剣での狙いがなかなか
命中しないが、まっいいか！。

今度は丸太渡り。任せておけと
ばかりピョンピョン渡ると得意
のポーズ！、ちよつと厳しい？
ロープを使つての斜面登り。悪
戦苦闘の末に無事上り切る。

悪戦苦闘の末に無事上り切る。
リボンテープをたどつて進んで
行く途中何かぶら
下がっている「何か
な？」言わずと知れ
た鳴子。これに触れ
ると敵に気づかれる
ぞ！、どんどん進む
と林の向こうに何か
ある：木の梯子を登
ると絶景かな？、怖
いかな？、でも頑張
る！：槌で板をたた
くとカコーン・カコ
ーンと辺りに良い音
が響いた。梯子を降
りるとおやつが待つ
ていた。

次は目隠しトレイ
ルに挑戦。ロープを
伝つて手で探り足で



探り前に進むとやつと下りだ。
出発点に戻つてほつと一安心も
つかの間、今度は大人の忍者と
の戦いだ。太鼓の音を合図に大
合戦！こことばかりにメツタ斬
りに遭うのは当然大人忍者：最
初の忠告の意味がやつと分かっ
たのである。合戦後にぜんざい
を頂き公開プログラム忍者ごっ
この終了。大輪で終わりの式を
して解散した。

今回の企画は光2団ビーバー
隊のベストヒットプログラムを
地区の行事として展開された。
主な目的としてビーバースカウ
トの活動に直接参加することに
より、スカウト運動を肌で感じ
てもらいこの運動への参加を呼
び掛ける事を目的とした。
この公開プログラムに合わせ
てスカウト展も開催した。

思い出をありがとう 岩国第1団 古田敦美

平成13年10月14日、結婚式を挙げました。式では岩国曙
団のリーダー、スカウトたちから素敵なソングをいただき
ました。ソングは贈る側だったのに、いつの間にか贈られ
る立場になってしまいました。今後は皆さんからいただいた
物を恩返ししていきたいと思ひます。



ジャンボリー参加記

山口第3団 太田真理

僕は、小学四年生の時からボーイスカウトの隊員である。今まで一番心に残っているのはやはり第12回日本ジャンボリーに参加したことだった。日本ジャンボリーは四年に一度開催され、まさにボーイスカウトのオリンピックと言えものだ。僕の参加した第12回大会は、秋田県の森吉山麓で開催された。

当時小学校六年生だった僕にとつては、寝台車での秋田への旅、八泊九日という長いキャンプなど、全てのこと未知との遭遇と呼べるものだった。

名物リーダー紹介

〔岩国暁団の巻〕



山口1隊40人は、キャンプ場ではなく、ただ草が生えているばかりの草原の草刈り、テントを設営した。皆、鎌を手に自分の割り当てられた区画の草を黙々と刈っていた。それまではキャンプ場でのキャンプしかしたことのない僕にとつて、僕にとつて何も無いところからのキャンプを始めるという初めての経験だった。

開会式は、野球場よりも広いアリーナに日本のみならず世界33カ国から二万七千人のスカウト達と一緒に集まって行なわれた。一面が緑色のベレー帽で埋め尽くされ、一人一人は小さくとも日本中のボーイスカウトが一同に集うと、これ程壮観なものになるのかと僕は感動した。八泊九日という長期の自炊、夏場に九日間も風呂、シャワーもなかったこと、班活動の時、野外料理で秋田の郷土料理であるキリタンポを作ったこと、キリタンポ鍋を作りすぎて残飯処理に困ったことも忘れられない。キャンプの間は、残飯も含めゴミや廃水を全く出してはならない。僕は、罰ゲームとしてこのキリタンポ鍋を食べ尽くすことを思いつき実行した。

「今度の集会に村上リーダーはこられますか？」
スカウト達の少し期待した声が聞こえてくる。現職の救急救命士という救急のエキスパートとして、地区で行われる「救急法講習会」の実施講師として演壇に立てば、「私のやり方が正しい。」といつてはばからないスカウト経験豊かな頼もしいリーダーです。

幸い僕はこの罰ゲームを逃れたが友達の苦しそうな顔を今でも思い出す。様々な初めての経験をしたが、中でも一番大きなアクシデントといえば九日間のうち七日間が雨だったことだ。僕達のことを、涙で歓迎するかのようになり降り続け、降っていないなかったのは二日目と班別活動の日だけだった。

山口は七月はじめには、梅雨明けしていたのに秋田は梅雨まつ盛りといった感じで、やはり梅雨は南の方から明けていくのだなあと思ってしまう。梅雨は南の方から明けていくのだなあと思ってしまう。梅雨は南の方から明けていくのだなあと思ってしまう。

しかし、どんな雨の中でも予定どおりプログラムは進められた。どしゃぶりの雨の中での閉会式は一生忘れられない。

この日本ジャンボリーからも三年が経った。今、日本ジャンボリーに参加した僕を含む当時六年生四人が山口第3団の実質的なリーダーとなっている。佐古、河野、吉岡そして僕との間には表現できない連帯感と友情が芽生えた。今年、日本ジャンボリーが大阪で開催される。僕達四人は支援隊として参加するつもりだ。ジャンボリーの素晴らしさを、他の隊員たちにも経験してもらいたいと思う。

もしも、僕がジャンボリーに参加していなかったら、おそらく「面倒くさいからやりたくない」という理由でボーイスカウトの活動に参加をしなくなっていただろう。しかし、日本ジャンボリーに参加をして活動の楽しさや充実感、達成感を知ることができた。何かをする時にお互い協力することの大切さ、綿密な計画をたてることの必要性も学んだ。ボーイスカウトの一員であることは僕の誇りだ。僕はこれからもボーイスカウトの活動を続けていきたいと思う。

山口は七月はじめには、梅雨明けしていたのに秋田は梅雨まつ盛りといった感じで、やはり梅雨は南の方から明けていくのだなあと思ってしまう。梅雨は南の方から明けていくのだなあと思ってしまう。梅雨は南の方から明けていくのだなあと思ってしまう。

スカウト君

作：おだゆきな



『不思議なこと』

宗教委員会 菅野慶全

長崎の小学校5年生の少年が次の様な詩を書きました。『もしも、ぼくが……』という詩です。『ぼくはたまたま人間という生き物の……日本という国の……この家に生まれてきた』

もしもほかの家に生まれていたらどんな父さんだったのかどんな母さんだったのか、そしてぼくはどんな顔で、どんなやつだったのか。

外国のアメリカかスペインかインドかブラジルかどこかの国の大使の子供だったかもしれない。ひよっとして人間でなかったかもしれない。

大空を舞うタカだったかもしれない、野山を駆けめぐるサルだったかもしれない。アフリカのサバンナに住むけものでライオンのえじきになっていたかもしれない。そう考えてみると人間という生き物で日本という国のこの家に生まれてきたことが不思議におもえる……』

詩はまだ続きますが、ところで皆さん、この少年は「この家に生まれてきたことが不思議です」と、とても大切なことに気づいてくれました。不思議なことに気づくとは、自分の生きている後にある力に気づくことです。自分を支えている尊い力に気づいたことです。もし「じゃ、僕も気づきたい」

と思えば、じつと周りを見まわしてみましよう。不思議なことはいっぱいある。例えば火がもえていることも不思議なら、空いっぱい光っている星の存在も不思議です。隊長と出会ったことも不思議なら横に座っている友達とであつたことも不思議です。そんな中でも、不思議さの代表格は何と言つてもお父さんとお母さんですね。自分が一生懸命、働いて、「育つてよ、大きくなれよ」とよびかけ、育てて下さるからです。さあ、そう思えばそれぞれ家のある方向にむかつて、「ありがと、おやすみなさい」といつてはどうでしょうか。お父さんとお母さんにきつと届くと思います。

あとがき

気が付けば広報委員になつていたわたし。

例えば、スカウトを離れてはや20年もの月日が経ちました。社会に出て、このスカウトの経験が今でも役に立っています。

例えば、言葉……

「そなえよ、つねに」この言葉に幾度となく助けられたことが、また今後も救われることとなるでしょう。広報委員として、ひとりでも多くこの百万一心を読んで頂けるよう努力していきたいと思ひます。

「百万一心」の言葉とおり、みんなの心が一つになりますように。(S)

編集責任者：広報委員長 羽村特美
印刷所：藤田膳写堂
長門市東深川892-9 (0837)22-2369
スカウト活動のお問い合わせは

山口県連盟事務局 mailアドレス：bsymg@ymg.urban.ne.jp
山口県連盟HP http://www.ymg.urban.ne.jp/home/bsymg/